

1. 授業の概要(ねらい)

ゼミの特色は「現場・実用主義」、「地域・社会貢献」、「創造性の育成」です。個人研究の他に、受講者に希望を募り3～4人単位で4～6班に分け、一つのテーマをもとに共同で計画を立てる共同研究を行います。そして、学期中に研究とともに教育普及活動として、社会と現場で役立つ制作物や企画を1種以上完成させます。課題のジャンルは①代表作品研究、②目録・資料作成、③展示ワークシート、④教育プログラム、⑤地域プロジェクトなどから選びます。テーマは美術・美術史・文化遺産に関わる内容で、近隣地域や社会の現場で役立つテーマを模索します。今期はテーブルウェアほか陶器、茶の湯、能と美術、建築、日本画、浮世絵、日本近代洋画、現代美術、西洋16～20世紀美術、竹久夢二、装飾美術、アール・ヌーヴォー、アール・デコ、エコール・ド・パリ、アフリカ文化、医療と美術、子どもと教育普及などを検討します。共同研究では、チームワークの協力と調整能力、協調性、リーダーシップの訓練を行います。さらに、個人研究では、発表の技巧を研鑽し、テーマや構成の独創性を学びます。各学期に2回、全員による発表会を、学会発表をシュミレーションして行い、テーマの良しあし、ハンドアウト(資料)、パワーポイントの作成について競い合います。そのため、学会参加は、研究のため必須となります。この演習から、辻清明旧居茶会・登り窯再興プロジェクト、近隣の美術館でのギャラリー・トークとワークシート作成、学会シンポジウムに連動したワークショップ(体験的授業)、展覧会の教育・普及を目的としたワークショップの開催など実施してきました。学外授業は、作家の工房や、美術館、帝京大学総合博物館などで行います。

2. 授業の到達目標

個人研究では、発表用のパワーポイントとハンドアウトの完成による専門的発表、共同研究では学期中に目標とした制作物、またはワークショップの実施を完成し、社会に還元できるまでを目標とします。

3. 成績評価の方法および基準

平常点を40パーセント、研究発表を30パーセント、共同研究への貢献度を30パーセントで、総合的に評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書

岡部昌幸 『比べてわかる西洋絵画』 成美堂出版

岡部昌幸 『戦慄の絵画史 西洋美術で味わう、知的恐怖の物語』 KADOKAWA

参考文献

ジュディス・ミラー(日本語版監修岡部昌幸) 『西洋骨董鑑定の教科書』 パイ・インターナショナル

5. 準備学習の内容

授業への意欲、学友との協調性、社会貢献への意識を求めます。

6. その他履修上の注意事項

各班に、教員が主導する学外授業がありますので必ず出席してください。

7. 授業内容

- 【第1回】 学会参加、運営(学外授業)
- 【第2回】 個人研究テーマの設定
- 【第3回】 展覧会ワークショップ等の参加、見学(学外授業)
- 【第4回】 研究テーマの精査
- 【第5回】 共同プロジェクト、調査
- 【第6回】 共同プロジェクト、研究
- 【第7回】 論文の調査
- 【第8回】 論文の書き方、構成
- 【第9回】 発表の準備
- 【第10回】 発表の資料作成
- 【第11回】 個人研究中間発表
- 【第12回】 研究の精査、美術館・図書館での調査(学外授業)
- 【第13回】 共同プロジェクト発表準備
- 【第14回】 共同プロジェクト発表
- 【第15回】 個人研究本発表